心を耕す道徳教育の創造と、それを支える推進体制整備

高知大学大学院　教育学専攻　学校教育コース　教育学分野　岡谷英明研究室
土佐町立土佐町中学校　教諭　坂本佳子

1　研究の目的

「道徳教育実施状況調査結果」および「全国学力・学習状況調査　児童生徒質問紙調査」のデータから、ほぼ全国の小・中学校に道徳教育推進教師が配置され、全校的な指導体制が構築されているにもかかわらず、その推進体制が十分に機能せず、児童・生徒の道徳性の向上につながる効果的な道徳教育が実践できていないことが明らかとなった。

そこで、本研究では、上記の課題を解決するために、以下のような研究仮説を立てて研究を進めることとした。

研究仮説
道徳教育推進教師を中心とした機能的な推進体制を整備することで、道徳授業を要とする心を耕す道徳教育を全教師が行うことができるのではないか。さらにそのことが、児童・生徒の道徳性の向上につながるのではないか。

また、研究仮説の検証は以下の４つの方法によって進めることとした。

(1)　心を耕す道徳教育および道徳教育の機能的な推進体制整備における道徳教育推進教師の役割についての理論研究

児童・生徒の道徳性の向上につながる道徳教育の機能的な推進体制とは何か、また、その整備における道徳教育推進教師に求められる役割を明らかにする。また、「心を耕す道徳教育」についても理解を深め、評価方法や評価規準について明らかにすることにより、推進体制の評価・改善の指標とする。

(2)　高知県における道徳教育推進教師を中心とした推進体制整備等の調査

高知県における道徳教育の取り組みを明らかにした上で、道徳教育推進教師を中心とした推進体制の整備状況、推進上の課題、高知県の教育課題の解決についての意識等を調査する。

(3)　「協働」を核とした推進体制整備の方策の提案

調査結果を踏まえ、「心を耕す道徳教育の創造を目指した、道徳教育推進教師を中心とした機能的な推進体制整備」について、「協働」を核とした推進体制の構築方法や検証方法について、先行研究や実践事例を基に提案する。

(4)　Ａ中学校における研究仮説の検証

「協働」を核とした推進体制整備の方策をＡ中学校において実践し、その結果を分析することによって、児童・生徒の道徳性が向上する方策について提案する。

2　研究内容

(1)　心を耕す道徳教育および道徳教育の機能的な推進体制整備における道徳教育推進教師の役割についての理論研究

児童・生徒の道徳性の向上につながる道徳教育の機能的な推進体制を、研究論文などから考察した。高知県教育委員会は「児童・生徒の自尊感情を育むとともに、社会性、規範意識を高める」ことを目標に、道徳教育をはじめとする「心を耕す教育」に取り組んでいる。本論文のテーマである「心を耕す道徳教育」とは、児童・生徒が生涯にかけてよりよく生きるための基盤となる道徳的実践力を育てる教育のことを指しており、「心を耕す道徳教育」を創造していくためにも、道徳教育の機能的な推

進体制が必要であることが分かった。

そこで、道徳教育の機能的な推進体制がどのように考えられているかを研究論文等から考察した。その結果、児童・生徒の道徳性の向上につながる道徳教育の機能的な推進体制は「校長の方針の下に、道徳教育推進教師を中心に全教師が主体的に関わり、協力して道徳教育を展開できる体制」であり、その推進体制整備に関して道徳教育推進教師に求められる役割は、各校で校長の方針により重点化された役割について「推進・調整・支援」することにあることが明確となった。

すでに、高知県では道徳教育重点推進校が指定され、それぞれの重点推進校において道徳教育研究が進められている。しかしながら、それぞれの研究を通覧し、「機能的な推進体制」や道徳教育推進教師を考察した研究はなく、より詳細な調査の必要性が明らかとなった。そこで、「機能的な推進体制」を、道徳教育推進教師の推進・調整・支援の役割についての教員意識調査で、また、「心を耕す道徳教育」を、児童・生徒の道徳性の向上についての質問紙調査で調査することが適切であると考えた。

(2)　高知県における道徳教育推進教師を中心とした推進体制整備等の調査

道徳教育の推進体制整備のための効果的な方策や手立てを見出すために、重点推進校の道徳性の著しい向上の要因について明らかにした。調査の主眼は、①重点推進校や一般校の、道徳教育推進教師を中心とした推進体制整備、②推進体制によって行われる道徳教育、③道徳教育の要となる道徳の時間の取組の状況や、それらに対する考え方の傾向を明らかにすることとした。

調査の結果、推進体制の形態については、小・中学校とも推進体制に「全教育活動における道徳教育の推進、充実」を求めており、その機能を最も実感できているのが「教育分野別に分かれた組織」であること、また、小学校の重点校では「教育分野別に分かれた組織」を取り入れ、成果を残していることもわかった。調査の中で校内研究校と通常校の比較も行った。重点推進校と違い、校内研究校は道徳教育が校内研究のテーマであるために、学校全体のベクトルを合わせやすく、多忙感も少ないように考えられる。しかし、重点推進校のように報告義務や取り組む内容の規定がないため、取組の内容に学校差が見られた。このことから、常に目標に向かって検証しながら研究を進める客観的な視点が、道徳教育推進教師に必要なこともわかった。

以上の調査結果を考察し、「教育分野別に分かれた組織」、「道徳教育推進部を設けた組織」、「各学年部に分かれた組織」の連携による「協働」を核とした推進体制によって、全員参加の「指導計画の作成」や、「道徳教育の研修の充実」による「道徳の時間の充実」を通して「心を耕す道徳教育」を目指すことが、児童・生徒の道徳性を向上させると考えた。

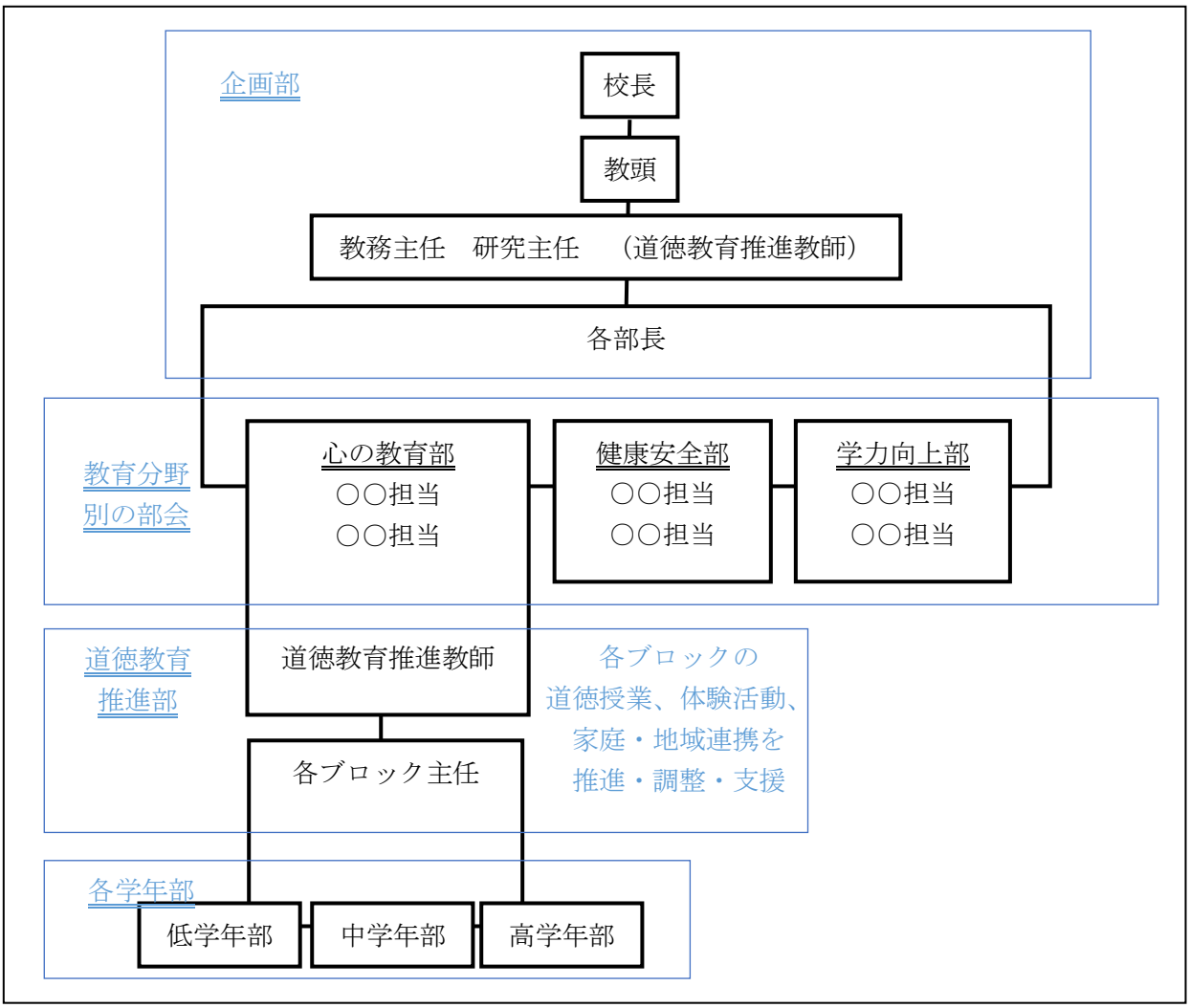
(3)　「協働」を核とした推進体制整備の方策の提案

(2)の調査結果を踏まえ、「心を耕す道徳教育の創造を目指した、道徳教育推進教師を中心とした機能的な推進体制整備」について、「協働」を核とした推進体制の構築方法や検証方法を「道徳教育の指導計画の作成」、「道徳の時間の充実と指導体制」、「道徳の研修の充実」、そして「それらにおける道徳教育推進教師の役割」を中心に提案した。

「協働」を核とした機能的な推進体制づくりについて、高知県教育の方針やその他の文献を参考に以下のような５段階の手順を提案した。

①　学校としての道徳教育の方針を立て具体的な方向を描く。
②　道徳教育推進教師を選任しその役割について検討する。
③　担当者一人一人が力を発揮できるような体制にする。
④　道徳教育の全体計画を立案し実践や活動を具体化する。
⑤　道徳の時間の年間指導計画の具体化とともに指導体制を考える。

次に、「協働」を核とした機能的な推進体制の組織化について提案した【図１】。この推進体制の特徴は「教育分野別に分かれた組織」、「道徳教育推進部を設けた組織」、「各学年部に分かれた組織」を統合した点にある。この推進体制が機能しているかは、「道徳教育重点目標や重点内容を具現化した取組の徹底」「道徳の授業力向上と苦手意識・多忙感の解消」という２点が全教員の課題意識・役割意識のもと行われているかを評価するとよいと考える。



【図１】「協働」を核とした機能的な推進体制（案）

「協働」を核とした機能的な推進体制を有効に機能させるためには、道徳教育推進教師の役割が重要である。とりわけ、道徳教育の指導計画の作成、道徳の時間の充実と指導体制の工夫・改善、道徳教育の研修の充実について指摘した。

(4)　A 中学校における研究仮説の検証

「協働」を核とした推進体制整備の方策を A 中学校において実施し、研究仮説を検証するとともに、「心を耕す道徳教育」を可能にする「心を耕す道徳授業」や、その他の活動と関連させた取組等、児童・生徒の道徳性が向上する方策について提案した。

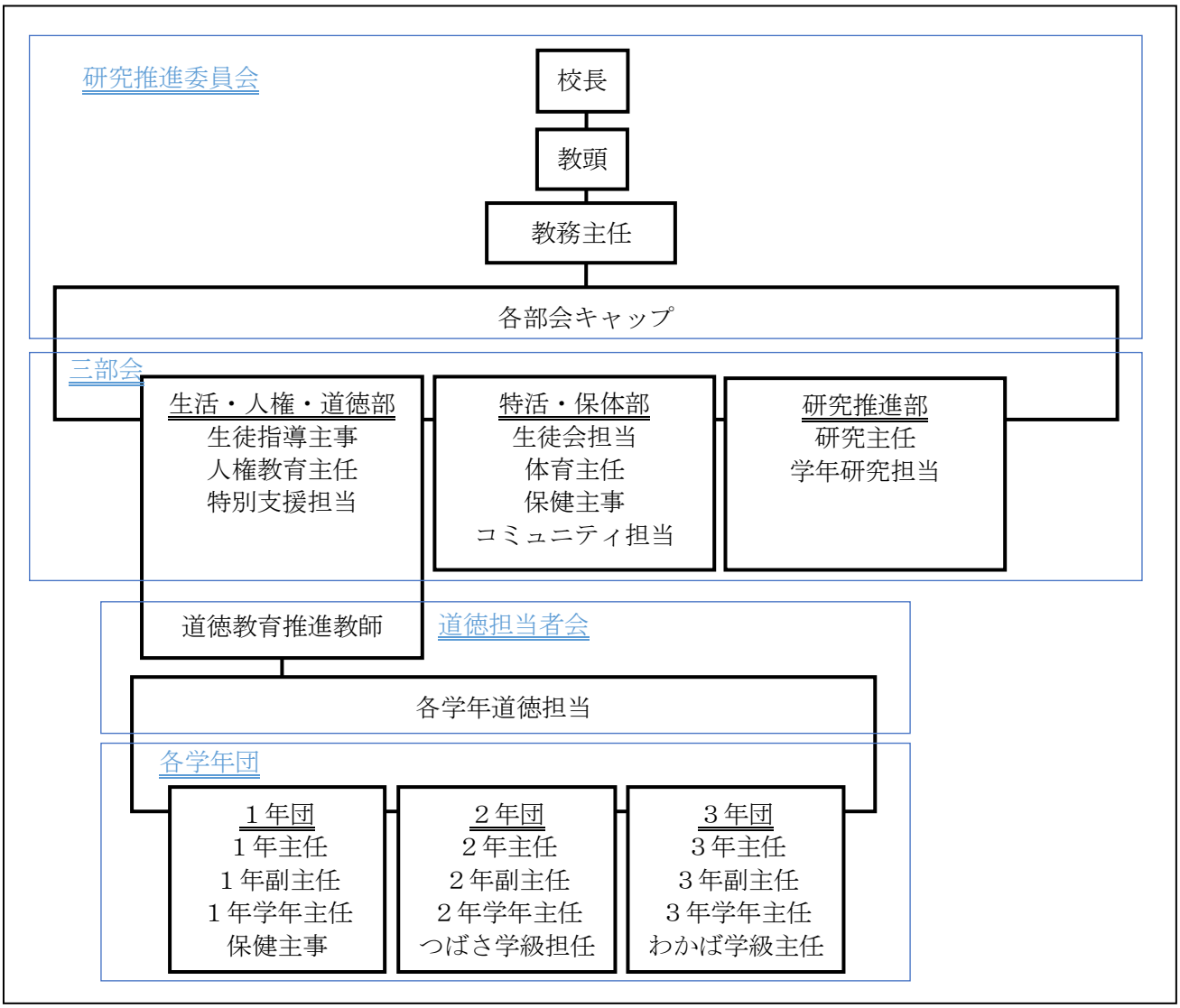
A 中学校における道徳教育推進体制を、(3)で提案した①～⑤の流れによって構築した。

①学校としての道徳教育の方針について意見交換し、方針を具体的に明示していただいた。その際、

論者は事前に平成 25 年度の小・中学校道徳教育推進教師と子どもの実態や道徳教育推進上の課題等を確認し、その内容を踏まえて校長と意見交換した。明確化の流れは高知県教育委員会の示すシートを参考にした。

②①で明確化された実践校における道徳教育の重点について、道徳教育推進教師が具体的にどのような役割を果たすかを校長に相談し、道徳教育推進教師が中心的役割を担うことを確認した。(3)では、この段階で「道徳教育推進カレンダー」を作成することとしていたが、年度当初には推進体制も流動的であったため作成できなかった。

③(3)の組織図を若干修正しながら、道徳教育推進体制を構築した【図２】。その際、「企画部」が「研究推進委員会」、「各教育分野別の会」が「三部会」、「道徳教育推進部」が「道徳担当者会」、「各学年部」が「各学年団」にそれぞれあたる。



【図２】Ａ中学校の道徳教育推進体制

Ａ中学校における道徳教育推進体制の成果と課題を「指導計画の作成」「道徳教育の研修の充実」「道徳の時間の充実」を中心に述べる。

まず、推進体制づくりの手順が示されたことにより、全教員の「協働」は実現しなかったものの、学校長との「協働」が実現し、学校長の方針が示され、指導計画を作成することが可能となった。ま

た、推進体制づくりがスムーズに進んだことにより、道徳教育重点目標や道徳の時間の方針の徹底がなされた。ただし、推進体制をもっと早期に機能させることができれば、さらに効率的に共通理解の形成が可能となるであろう。

推進体制が組織されたため、道徳の時間の充実が図ることができた。A 中学校では、「ねらいにせまる道徳授業」が目指されているが、「道徳担当者会」と道徳教育推進教師の「協働」が機能することによって、徹底したい内容が定着し、お互いに高め合いながらねらいにせまる授業が可能となった。

道徳教育の充実のための協働には、教職員の授業力の向上は欠かせない。そのためには、道徳教育重点目標や道徳の時間の方針に従った実際の授業を見てもらい、方針と照らし合わせながら事後協議を行うことが重要だと考え、小中合同の研究授業を道徳教育推進教師が行った。道徳教育推進教師が十分に役割を果たすことができていたかについての「道徳教育推進教師の役割に関するアンケート」を実施した。重点的に支援した中学校教員を中心に、肯定的評価が高い結果となった。このことより、全教員が同じ授業を観察し、かつ議論を行うことを通して道徳教育重点目標や道徳の時間の方針を理解していく方法は効果的であったと考える。

【表１】道徳教育推進教師の役割に関するアンケート

（小学校教員 11 名、中学校教員８名、計 19 名を対象に調査。数値は肯定的評価。単位：%）

	項目	小学校	中学校	総計
1	道徳の時間の特質と楽しさを、教職員が理解できるように率先して働きかけている。	80.0	87.5	78.3
2	道徳の時間の進め方について教職員の相談に乗っている。	66.6	100.0	86.4
3	道徳の時間が話題になる職員室の雰囲気をつくっている。	70.0	100.0	78.2
4	校長や教頭などによる指導や、ティームティーチングなどを積極的に呼びかけ、計画や調整をしている。	77.7	75.0	77.3
5	道徳教育や道徳の時間の特質、授業づくりについて理解する教員研修を行っている。	100.0	87.5	86.9
6	学校ぐるみで児童生徒の心に響く授業づくりに取り組んでいる。	77.8	100.0	81.8

○道徳授業の、学年団の指導体制は無理なくできたでしょうか。（抜粋）

【小学校】	【中学校】
＜成果＞ ・やらなければならない意識が強まった。 ・授業をしてもらったことがよかった。 ・Ｔ１を７年部にしてもらい、担任が他学年の授業を参観できてよかった。 ・小中に道徳教育推進教師の考えをきちんと提案されている。 ・児童の様子を共有できる。 ＜課題＞ ・学年団での打ち合わせがいつも勤務時間外。	＜成果＞ ・計画通りにできた。 ・担任だけでなく、副担任や他の先生の授業を見られるのが大変良い。 ・ローテーションを決めて役割も割り振り、無理なくできた。 ・打ち合わせをして、きちんと流れを決めてから取り組めるので、不安なく授業することができた。 ＜課題＞ ・学年団の打ち合わせがいつも勤務時間外。

○　道徳教育推進教師の役割として効果があり、２学期以降も継続したらよい内容は何ですか。（抜粋）

・小中をつなぐ取組について企画・提案できた。 ・道徳の良い実践例を紹介してほしい。 ・授業をやっていただくと、勉強になる。 ・一緒に読んでくれたり、お話ししてくれたり、ノートに丸とか入れてもらったりがうれしい。 ・本音が言える授業にできるようアドバイス。 ・教職員の相談に乗る。	・道徳担当者として各学年を回ること、最初はおっくうに思えましたが、新たな風を送るという意味でよかったかなと思う。 ・指導案作成（中心発問） ・Ｔ１の授業を見て勉強させてほしい。 ・資料や掲示物の相談。 ・授業の中での切り返し発問。

○　２学期以降、道徳教育推進教師の役割として、改善したらよいことは何ですか。（抜粋）

・進捗状況の把握 ・グッズの紹介	・特になし。精力的に動いて助かっている。 ・このままがよい。

また、「ねらいにせまる道徳授業」が実践できたかについて、生徒の実態を把握し指導を振り返るために、感想について評価規準を設定した【表２】。例えば、本時のねらいが「５　道徳的実践意欲と態度」である場合、それぞれの評価分類ごとの割合を求め、その中で「５　道徳的実践意欲と態度」の通過率や、その他の分類における感想を考察することにより、本時がねらいとする感想が出されるような展開や発問、問い返しであったかを評価し、改善の材料の一つにすることができると考える。

【表２】ねらいとする道徳的実践力別の、道徳授業の感想の評価規準

評価分類	道徳的実践力	評価の観点（学習指導要領より）	道徳授業の感想の評価規準（ねらいとつなげた記述）
０：記述なし、１：授業全体の感想を記述、２：ねらいの価値と異なる観点で記述			
3	道徳的心情	道徳的に「望ましい感じ方や考え方、行為」に対して、あるいは逆に「望ましくない感じ方や考え方、行為」に対して、適切な感情を持っている。	・～がよかった。 ・～のよさがわかった。 ・～の気持ちがわかった。
4	道徳的判断力	道徳的諸価値についてどのようにとらえているか、また、道徳的判断を下す必要がある場面に直面した際に、適切に思考し判断することができる。	・～がよいこと、よくないことがわかった。 ・～もし自分なら… ・自分は～だった。
5	道徳的実践意欲と態度	学校や家庭での生活の中で、道徳的によりよく生きようとする意志の表れや行動への構えが芽生え、定着している。	・これから～したい。 ・～できるために日ごろから～したい。

以上のような推進体制を構築することによって、評価の指標としたＡ町道徳調査（「自分には、よいところがあると思う」という項目）の結果は、昨年度末と比較すると 10%程度、肯定的評価の生徒の割合が増えた。しかしながら、目標の 80%には達しなかった。

３　研究のまとめと今後の課題

(1)　研究の成果とこれからの推進体制

研究の結果、「機能的な推進体制」を整備することによって、「協働」を核とした「心を耕す道徳教育」を行うことができる体制を創造することができたと考える。これからは、この体制を土台として「心を耕す道徳授業」と他の教育活動を関連させた「心を耕す道徳教育」の質的向上を目指すことが大切であると考える。そのためには、やはり今回の研究で焦点化した「道徳教育の指導計画の作成」、「道徳の時間の充実と指導体制」、「道徳の研修の充実」の３点を中心に、道徳教育推進教師が推進・調整・支援の役割を果たす必要がある。そのためには、目指す道徳教育や道徳授業、そして児童・生徒の姿を明確にイメージすることが重要であると考える。今後も先進校に学び、目指す姿とそれにせまる方策を追求していきたい。

(2)　今後の課題

以上、「心を耕す道徳教育の創造と、それを支える推進体制整備」についての研究を総括してきた。この研究において、課題として残ったものは以下の２点である。

①　年度当初の道徳教育推進教師による推進・調整・支援の見通しの明確化

② 推進体制整備による教員の多忙感の解消

平成 26 年 10 月、中央教育審議会より「道徳に係る教育課程の改善等について（答申）」が出された。その中で、道徳教育の基本的な考え方については道徳の時間が教科化されても、現在取り組まれている道徳教育のねらいおよびそれを推進する道徳教育推進教師の役割は変わりないことがわかる。

道徳の時間は、各教科等に比べて軽視されがちで、道徳教育の要として有効に機能していないことも多く、このことが道徳教育全体の停滞につながっていると言われている。道徳教育を今後より一層推進するためには、やはり機能的な推進体制により「心を耕す道徳授業」を要とする「心を耕す道徳教育」を目指すことが重要であると考える。その中心となる道徳教育推進教師は、これまでよりも一層、推進・調整・支援の役割を果たさなければならない。

参考文献

中央教育審議会『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）』（2008）
文部科学省初等中等教育局『道徳教育について』第２回教育再生実行会議配布資料（2013）
赤堀博行、澤田浩一『平成 25 年度道徳教育指導者養成研修（中央研修）』講師資料
高知県教育委員会『高知の道徳　八策』
（http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310301/files/2013032703694/01ichinosaku.pdf）
永田繁雄・島恒生『道徳教育推進教師の役割と実際－心を育てる学校教育の活性化のために』（2010）教育出版株式会社
永田繁雄『平成 24 年度道徳教育指導者研修（中央研修）』講師資料
宮地真人『協働意識を高めることによる道徳教育推進体制の改善・充実－道徳教育推進教師がかかわる道徳教育マネジメントの推進－』（2012）群馬県教育センター
（http://www2.gsn.ed.jp/houkoku/2010c/10c04/10c04h.pdf.pdf）
鈴木健二「校長の指導力が問われる－道徳教育推進教師を中心とした指導体制の問題点－」『現代教育科学』（2010.9）
向山行雄「校長の下での働き掛け－道徳教育推進教師を中心とした指導体制の問題点－」『現代教育科学』（2010.9）
上田保明「道徳未だ校門を出ず　保護者・地域を動かす発信基地」『現代教育科学』（2011.6）
槇田　健「新学習指導要領の目玉になってない－道徳教育推進教師を中心とした指導体制の問題点」『現代教育科学』（2010.9）
横山利広『道徳教育、画餅からの脱却』（2007）暁図書出版株式会社
小寺正一・藤永芳純『道徳教育を学ぶ人のために』（2009）世界思想社
平成 22 年～24 年道徳教育重点推進校『重点推進校研究実践発表資料』
永田繁雄・藤澤文『道徳教育に関する小・中学校の教員を対象とした調査－道徳の時間への取組を中心として－＜結果報告書＞』東京学芸大学「総合的道徳教育プログラム」推進本部第１プロジェクト（2012）
大藏純子・柳沼良太「道徳教育推進教師のあり方と開発実践～岐阜県羽鳥郡の実践を中心に～」（2013）『岐阜大学教育学部研究報告』（教育実践研究、第 15 巻）
朝倉淳『道徳教育実践力を育てる校内研修』（2006）渓水社